

喜びあふれる ようぼくに

ひきよせ



夏のこども会 (8月11日、記事4頁)

発行所
天理教夕張大教会
〒068-0029 北海道
岩見沢市9条西6丁目21
☎ 0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
yubaridai146@gmail.com

ホームページ
bariten.main.jp



LINE 友達登録
お願いします

心新たに 教祖140年祭へ向かう節目として

藤田文雄前会長一年祭執行

去る8月30日、前会長の命日にもあたるこの日、夕張大教会にて、松田理治本部長を祭主に藤田文雄五代会長の一年祭が執り行われた。

当日は雨の降る中、道内はもとより、全国から家族・親族、教信者、また友人知人が約170名ほど集まり、殿内に設けられた参拝席は開始直前には埋まり、溢れた参列者はモニターを設けた食堂に回る程であった。霊様の前に設置された祭壇には、多くの献饌・献花が供えられた。

午前11時より開式。祭主・松田先生は祭文にて前会長の行跡を綴ると、在りし日の前会長の面影を思い出してか、すすり泣く声も



各所から聞こえた。その後、家族・親族が祭壇前に参進して参拝。続いて直轄、各部内教会の代表が次々に参拝した。

その後、松田先生を芯に、座りづとめが勤められた。祭主あいさつにて松田先生は、出直しの教理を分かりやすくお伝

夕張大教会五代会長 藤田文雄追悼文集
『貴方への手紙』 令和7年8月30日発行

え下され、前会長が生まれ変わってくる事を願いつつ、楽しみに過ごすことが残された私達に出来る事ではないか、と話された。また来たる教祖百四十年祭、翌年の夕張創立百三十年周年に向けて、夕張が一手一つに取り組むことを願われた(来月号にて掲載)。大教会長はあいさつで、この度上梓された前会長の追悼文集を紹介され、また編集に携わった人達に感謝の言葉を述べられた。

その後、殿内にスクリーンを設置し、大教会長が自作した、前会長の思い出のスライドショーが流され、往年の前会長の姿に涙する人も多かった。また、歌手・中島みゆきさんが約40年前に、北海道教区青年会・女子青年の為に作った曲「北の旅人」を、その場にいる全員で合唱し、歌が好きだった前会長への手向けの歌声が殿内に響き渡った。

参列者には弁当と、前会長の孫達が袋詰めしたこの日のお下がりが配られた。また偲び草として、追悼文集『貴方への手紙』が参列者に贈呈された。

(藤崎勇)

お知らせ

全教会布教推進月間	9月1〜30日
みちのだい育み塾	9月23日(火祝)
全教一斉にをいがけデー	9月28〜30日
秋季大祭	9時30分開扉献饌
10月15日(水)	

八月月次祭の様様

8月に入っても、北海道は猛暑の日が続ぎ、札幌では真夏日の日数が史上最多となる程、連日の暑さに唸る毎日であった。迎えた15日、月次祭の朝は、前日からの雨で幾分か温度が下がったものの、その分湿度が高く、ムシムシとした空気の一日となった。

定刻9時半より開扉献饌。祭儀式のち祭文奏上。祭文にて大教会長は、多数の参加となったこともおちばがえりに御礼申し上げ、今後も育成と丹精に全力で取り組むことを親神様・教祖にお誓い申し上げた。その後、座りづとめ・十二下りのてをどりが勤められ、むせ返る暑さの中、大型扇風機で涼を取り、水分補給をしながら、勇んだおつとめが勤められた。講話には齊藤智明・南幌分教会長が壇上に上がり、「昨年、東苗穂の会長さんが大教会の神殿講話を



講話・齊藤智明会長

神殿講話全文は、QRからご覧いただけます



され、大学の研究とご長男の話を絡めた信仰のお話が大変素晴らしいことがあったことを覚えていらつしやる方もいるでしょう。実は、その方、私のお兄ちゃんなんです。今日は私の番ということで、兄に負けられないと思ひ、同じく「名前」をテーマに話すことにしました。ただ、私には子供がいまいませんし、名付け親になったこともないので、私の名前についてお話しします。

私の名前は「智明」といい、父がつけてくれました。実は、父は私に別の名前をつけるつもりでした。その名前は「真善」で、今はお兄ちゃんの名前になっています。この名前なら、もう少し品のある人間になれたかもしれないと思うこともあります。父は元々、長男に「理人」という名前をつけようと考えていたのですが、先に生まれた甥っ子にあげてしまったため、次男に考えていた「真善」を長男に命名。そして、私が生まれてから慌てて考えたのが「智明」だったそうです。

正直、私はこの名前があまり好きではありませんでした。「智」から始まる名前は昔から多く、特に「とも」という響きは誰にでも呼びやすいため、子供の頃はどこへ行っても「とも」と呼ばれ、ありふれた名前だと感じていました。漢字の意味も「賢く明るい人間」となり、平凡に思えたのです。

しかし、高校生の頃、父にその不満を漏らしたところ、父は激怒しました。「自分の名前の意味も分からずに生きてきたのか!」と。そして、初めて名前の本当の意味を教えてくれました。「明」という字は「月日」と分解できる。つまり、「月日」を深く知る、神を知る」という意味を込めて「智明」と名付けたのだと。

その話を聞いて、平凡だと思っていた名前が急に重みを持ち、父の深い思いに感謝の気持ち湧いてきました。と同時に、「月日」が「神」という言葉に疑問を抱きました。おふでさきには親神様が「月日」だと示されていますが、太陽は人間や生き物にとつて不可欠でも、月はそうではない、と子供心に思ったのです。月は神様の「例え」に過ぎないのではないかと。

しかし、この疑問を解消するために調べてみると、驚くべき事実がわかりました。地球が太陽に対して傾いているのは月の引力のおかげだそうです。もし月がなければ、地球の傾きがなくなり、季節が消え、年中氷河期のような気温になる地域が増えます。また、地球の自転速度も3〜4倍になり、常に大嵐が吹き荒れる環境になるなどのこと。つまり、月がなければ人間は生きられないのです。さらに、月の引力は地球の生命誕生にも深く関わっていました。

月の引力による海の満ち引きが、海中の物質をぶつけ合わせ、生命の材料となるアミノ酸やタンパク質を形成したという説もあります。これらのことから、私は「月」が単なる「例え」ではなく、火、水、風のご守護を調節し、命を守り育てる、まさに親神様のお働きそのものであると悟りました。

そして、神様は嘘をつかないのだと確信しました。人間は親心から子供に「嘘」をつくことがありますが、親神様は人間に分かりやすく教えを説くためであっても、決して嘘はおっしゃらない。このことを知ってから、私は自分に都合よく教えの基準を下げるような反省をやめました。

昔は10点を取っていた私も、今では10点、15点取るのが精一杯という状態ですが、名前から学んだこの教えを胸に、日々正直に反省を続けていきたいと思っています」と話した。

大教会長はいささつの中で、8月30日に執り行われる、前会長の一年祭についての注意点を詳細に説明された。また、前会長が好きだった中島みゆきさんが、北海道教区青年会・女子青年に向けて作られた曲「北の旅人」を紹介し、当日参加者皆で前会長を偲んで歌おうと、スクリーンにカラオケ映像を流して、その場の全員で練習した。

(藤崎勇)

庶務部 8月

- ▽炊事本部ひのきしん 8・1〜15
- ▽宮本 和昭 (夕喜丸)
- ▽学生生徒修養会・高校の部 8・9〜13
- ▽富山 朱理 (栗山)
- ▽大橋 宗馬 (由仁)
- ▽高橋 悟志 (祝梅) 【係員※】
- ※直前研修(8・7)より参加
- ▽話所ひのきしん 8・30
- ▽話をまもり 1件 (新生)
- ▽話所教養掛
- 8月 富山知一(栗山)
- 9月 渡部辰大(善進道)
- ――左記、5月末掲載分――
- ▽教員資格検定講習会中期・後期 5・2〜11
- 藤北沙穂里 (長沼)
- 千葉 靖子 (長沼)

大教会目録抄 8月

- 4日 組例会
- 11日 夏のこども会
- 14日 月次祭準備
- 15日 月次祭
- 23日 追悼文集編纂(20日) 会長、おちばへ
- 24日 会長、本部神職当番
- 25日 会長夫人、おちばへ
- 26日 本部月次祭、遥拝式 会長、かなめ会
- 27日 会長夫人、婦人会例会 会長夫妻、帰会
- 30日 前会長一年祭

にをいかけ実動について

- ◇活動報告
- 日時・8月23日 10時〜15時
- 場所・幌部分教会
- 参加人数・3名
- 内容・神名流し、戸別訪問(100件)
- ◆次回以降実施予定
- 日時・9月30日 10時〜15時
- 10月30日 10時〜15時
- 集合場所・夕張大教会

様々な思いにふれて

富山朱理

私は今回、志加ノ谷の会長さんに勧めていただき、初めての学修に由仁の大橋宗馬さんと一緒に参加させていただきました。

最初の方は不安や緊張でいっぱい、行く前からやっぱ帰りたくない、班の子と上手くいかなかったらどうしよう、などと考えてしまっていました。ですが、実際にプログラムを行っていく中で、班のみんなはすごく優しく温かくて、2日目には不安を一切感じず楽しんでる自分がいました。

班ごとで様々なゲームをし、その得点を競い合うゲームラリーや、男女一組になってダンスを踊るレクダンなど、みんなとの距離が縮まった楽しいプログラム。移動中やご飯中、寮などで班のみんなとした恋バナなどの他愛もない会話など、どれもとても楽しい思い出ですが、私が一番印象に残っているのはグループタイムです。

グループタイムでは、普段学校のお友達とは話せないような天理教のお話がたくさんできました。自分たちで火、水、風のご守護の資料を作った。プレゼンするなどもしました。特に天理教トクという時間では、みんなが気になっている天理教に関する疑問などを、紙に書いて質問するという内容で、みんなが天理教のことをどう思っているのか、実際に陽気ぐらしは実現可能なのか、天理教の中で一番好きな言葉はなにか、周りの人たちに自分が天理教であるということ伝えていくかなど、様々なことを話し合うことができて嬉しかったし、いろいろな思いが聞けて心に残っています。

今回の学修を通して親神様や教祖のことを学べたのはもちろん、周りの人へ感謝の



富山さん(右)と大橋さん(左)
【今年3月話所にて】

学生生徒修養会・高校の部 受講生の声

言葉を伝えることの重要さなどの大切なことも同時にたくさん学ぶことができました。この経験を活かして、これからはもっと素敵に成長できる自分でありたいと思いました。【3年・栗山分】

僕の「陽気ぐらし」

大橋宗馬

私は今回の学修に参加させてもらい、様々な経験をし、たくさん学ぶことができました。

初めは、少し緊張しながら話所に足を運びましたが、スタッフさんの「おかえりなさい！」という声と温かい雰囲気に触れ、さっきまであった緊張がワクワクにかわりました。しかし、僕の緊張はまだ残ったままです。なぜかと言うと僕が一番心配していたのは友達と仲良くなれるかどうかでした。でも同じ班の子が、とても優しく声をかけてくれて、あっという間に仲良くなれました。

僕が学修を通して学んだことは、「陽気ぐらし」の大切さです。今までは何となく聞いたことがあるぐらいで、具体的に何を意味するのか、どうしたら「陽気ぐらし」をできるのかがわかりませんでした。したが、今回の学修を通して教えていただきました。それは、誰かのために心を尽くす「ひのきしん」を、喜びと感謝の気持ちで行うことと、誰かの喜びは自分の喜びとなり、誰かの悩みは皆で分かち合うことで、心が軽くなるのが僕が学修で感じた「陽気ぐらし」だと思います。

今回の学修を終えた今、僕の毎日の生活が、前よりももっと明るくなったような気がします。これからは、学んだことを忘れずに、小さなことにも感謝して、周りの人たちにもこの温かい気持ちを分かち合っていきたいと思います。陽気ぐらしの道を一歩ずつ、でも楽しく、歩んでいけるよう頑張ります。【3年・由仁分】

この度、8月1～15日の間、ご本部炊事本部ひのきしんを、無事に楽しく勤めさせて頂きました。

配属先は仕込み班で、主に野菜などを箱から取り出して、テーブルの上で包丁とピーラーによる皮むき作業。最初の5日間ほどは、こどもおちばがえり期間ということもあり、昼食の休憩をはさんで朝9時から夕

楽しかった、ひのきしん

夕喜元分教会長 宮本和昭

方3時まで、カレーに使用する約4トンにおよぶ大量のたまねぎと人参の皮をむきました。さらに8日目からは、学生生徒修養会・高校の部に関わる、生徒、スタッフ約1,000名ほどの食材の用意でした。

今回は私を含め4名が派遣され、私が最年長、次が60代、他2名は30代で何回もひのきしんに来ており、色々作業の手順など親切に教えて頂きました。

10日目からは通常に戻り、数も少なくなりキャベツ、きゅうり、白菜、ごぼう、長ネギ、大根など、色々な野菜や素材を切ったりしました。

ひのきしんの合間には工場見学をしましたが、煮物、揚げ物用などの巨大な回転釜は、何十数台と並んでいました。その次の部屋には、お米を自動で洗米し、炊飯用カンパンに移した後、ガスで熱せられた長さ約30m程のベルトコンベアーに乗せられ、ゆっくりと炊き上がって出てくる設備もありました。それが何と、3台もあるのです。びっくり仰天です。その向こうには惣菜、おかず等を詰めるベルトコンベアーがあり、最後に話所等に配食するヤードがあり、まるで巨大な工場でした。たしか私の記憶では教祖百年祭の年、一日20万食を作って配食していたと聞いていました。

今回、食堂ひのきしんには、色々家族から猛反対されましたが、猛暑の中、贅沢に車で送り迎えして頂いた話所の方々に感謝、感謝です。人生最初で最後の有意義な楽しい経験をさせて頂きました。

突き抜けるような青空——。真夏の陽光が照りつける8月11日、大教会で開催された恒例の「夏のこども会」に、少年会員24名、育成会員・スタッフ24名、計48名が参加した。

集合後、境内地の除草ひのきしんを行い、食堂にて水分補給、かき氷を食べてリフレッシュ後に、大教会裏の境内地で昨年も好評だった水鉄砲バトルゲーム「ポイポイバトル」を開始。ゲームを熟知した少年会員は自前の水鉄砲で参加。軽トラックの荷台に乗った敵ボス役スタッフは、激しい集中砲火を受けていた。

恒例の流しソーメンでは、変わり種を用意。次々流れてくるソーメンを食べながら、合間には、ラーメン、トマト、ぶどう、冷凍ゼリーを流し、すくい上げにくいデザートに苦戦しながら美味しく楽しんだ。食後には、「水風船投げ」を開催し、年齢別に競い合い、それぞれの一位にはお菓子が授与された。

(団長・藤田豊)

みんなで作る真夏の思い出



少年会夏のこども会



夕喜元隊

7月30日～8月1日、お泊り会を開催しました。今年も遠く沖繩から、夕喜元隊新隊長の宮本咲葵さん、奈緒さん、青年会夕喜元分会、新委員長宮本昂輝さんが暑い北海道に帰ってきました。早速、教会に参拝し、会長からそれぞれ辞令を渡しました。翌日、会長不在の中、庭先で焼肉パーティー、夜には花火をして楽しく過ごしました。次の日には、富良野ラベンダーを見て、暑い北海道を満喫しました。(宮本和昭)



峰延隊

8月11～12日にかけて、少年会員2名、育成会員5名で行いました。おつとめ、鳴物練習はもちろん、流しソーメン、スイカ割りやじゃがいも掘り、さらにはプール遊び、花火、シャボン玉など、札幌では叶わない田舎ならではの遊びを満喫しました。(梶川洋子)



神富隊

8月10～11日に行われ、少年会員15名、育成会員10名、計25名が参加しました。月次祭がつとめられたその日の夜は、神殿に所狭しと敷き詰められた布団で、みんなで仲良く就寝。翌日、澄み渡る青空のもと、暑さも忘れ、友だちと思いつき楽しい時間を過ごしました。(松下真)



第54回祝梅若人会 夏季練成会開催



八月十日から一泊二日で、祝梅分教会にて夏季練成会を開催しました。少年会員十一名、育成係十名、教会・ひのきしん二十七名、総勢四十八名が参加の御守護を頂きつとめさせていただきました。

一日目は、「おてふり・鳴物練習」で座りつとめとよろづよ八首の練習を実施し、夜は少年会員たちが楽しみにしていた「きもだめし」と「花火」で盛り上がりました。その日の夕食は焼きそば、焼き肉、焼きマッシュマロ、つくねなどをみんなで美味しくいただきました。

二日目は、朝つとめのまなびで前日に練習した鳴物でよろづよ八首をつとめ、「教話」ではYouTubeも利用して陽気ぐらしなどについてのお話を頂き、「野外活動」では育ちの広場にてキックベースボールで、元気いっぱい体を動かしました。

家族みんなでの参加や、新しいお友達も加わり、皆さんの笑顔が輝く二日間でした。

(若人会委員長 伊藤伸幸)

教会お泊り会 こども会 開催報告

